

最近受け手のSさんから聞いた話。
ある日の電車の中で、後ろに立っている二人の高校生らしき男の子の話が聞こえてきた。
A「まだ彼女と付き合っている？」
B「もう、別れた」
A「どうして？」
B「彼女、あつくるしいんだよ」
A「あつくるしいって……？」
B「……………」
A「ああ、そういうことか分かった」

一期一会

残念ながらB君のあつくるしい中身は聞き取れなかった。しかし、Sさんは「あつくるしいって……？」と聞けるだろうかと自問自答した。「あつくるしい」を自分なりにイメージして、相手の話を深く正確に聴くチャンス逃してしまっているのではないかと。

(蝶)



一期一会

一本一本の電話を大切に丁寧に聴く「受け手」。
顔も見えない、名前も言わない、イヤだったら切ってもよいという前提でかけてくる「かけ手」。
今この時 不思議な縁でつながっている受け手とかけ手。
電話でのかかわりは一期一会である。

Vol. 1

Vol. 2

一期一会

Mさんは中3の娘が部活のことで悩んでいるらしいと感じていた。「休もうかな……とか」「やめたいいな……」と時々言っていたからだ。それでも普段通り通学する姿をみて安心していった。
夏休みのある日、「暑い！」とボタンをはずした娘の胸にひとすじの傷を見つけた。Mさんは思わずブラウスをはぎ取った。娘の肌には無数のためらい傷が刻まれていた。
「こんなに苦しかったのか！」
Mさんは言葉にならない「う

一期一会

二年前のこと。宿泊研修から帰ったMさんは疲れてごろんと横になっていた。
そこへ、パパに連れられて子供達が帰ってきた。三歳の末娘がそととタオルケットをかけてくれた。
Mさんは薄目を開けて黙って娘を見た。すると娘は「どういたし



電話の声に耳をすます受け手

おうー」という、うめき声をあげ、涙があふれた。娘を抱きしめて慟哭した。娘も母にすがり泣いた。二人は子どものように大声で泣き続けた。
あれから娘はふつ切れたようになつた。部活も辞めずに中学を卒業した。

(蝶)

まして」と言った。
「まだありがとうと言つてないよ」と言うのと「でも聞こえたよ」と応えたという。
忘れられない話である。
語られぬ言葉を聴く力を、大人はいつから失ってしまったのだろうか？

(蝶)

Vol. 3

Vol. 4